

会議結果

| | |
|--|--|
| 会議名 | 第2回西尾市補助金等検討委員会 |
| 日時 | 平成30年8月17日(金) 午後1時30分～午後3時30分 |
| 場所 | 西尾市役所 2階 21会議室(防災会議室) |
| 出席者 | 委員…横山会長、久世副会長、三浦委員、清水委員、榊原委員 事務局(企画政策課)…齋藤課長、松原課長補佐、鈴木主任主査、三浦 農林水産課…小笠原課長補佐、内田主事 |
| <p>松原課長補佐が会議を進行。 会議の概要は次のとおり。</p> <p>1 あいさつ(齋藤課長) 本日で2回目の開催ということでスムーズな進行にご協力をお願いしたい。</p> <p>2 補助金の評価 松原課長補佐から説明。 前回2つの補助金を評価いただいたが、補助金の評価結果の配点について委員から意見があった。 8割を現状維持としていたが、7割である49点以上とすることを事務局案として持っている。しかし、評価件数が少ないためあと1、2回様子を見て改めて提案したいと思う。</p> <p>(1) 補助金No.67, 68の検討結果について 前回、各委員からいただいた意見を基に変更した調査票を提示した。</p> <p>(2) 補助金No.81, No.83, No.84, No.85の検討について 横山会長が進行。 下記の補助金について担当課説明、委員質疑、評価のまとめを行った。</p> <p>●No.81 海浜清掃事業費補助金(農林水産課) ・主な委員からの意見等 進捗率を目標とすることに疑問がある。 養鰻水路清掃は特定の業種への補助となり、特定業種の事業によって水路が汚くなっているものに対する補助となり公平性は低い。うなぎに対する補助を整理し、別の補助方法にしてもいいのではないかと。 手作業でやるのが良いのか等、清掃の手法を考える必要がある。 補助団体によって日当の算定根拠が違うのは疑問があるため、出役作業費は各団体で統一された方が良く考える。 いろいろな名称でいくつかの補助が出ているので、どの団体にどの程度補助しているかがわかるような仕組みの再構築は必要と考える。</p> <p>●No.83 地場産業振興事業費補助金(農林水産課)</p> | |

・主な委員からの意見等

9,072t に対して目標 100t というのは目標が低すぎないか。

きれいな海を残すために必要なことは理解するが、アサリだけに補助するというのはどうか。県に支援を求めてもよい事業ではないか。

アサリ稚貝放流事業等わかりやすい補助金名称にし、補助率も 50% にしたほうがよい。アサリ養殖等の研究に対する補助を構築するなど新しい視点の補助が企画できたら良い。

●No. 84 養殖振興事業費補助金（農林水産課）

・主な委員からの意見等

親うなぎを放流することは必要と思うが、補助金の額も少額であり、別の方法で補助することができないか検討してほしい。

一旦この補助金は、廃止してうなぎ支援全体の中で再編すべき。あまりに少額なため、適格とは思えない。うなぎ関係の補助金と統合すべき。

うなぎが減っていく環境を作ってしまったのは私たちであり、環境向上も含め考えて欲しい。プラスの意味で、一旦この補助金は廃止し、他の補助金と合わせて再編してほしい。

●No. 86 内水面振興対策事業補助金（農林水産課）

・主な委員からの意見等

補助しない年があるのであれば切迫していないのではないかと思う。

管や舗装などで自然の形を変える場合、それを廃止する時にどうするのかを行政は考える必要がある。

養鰻水道敷設替の全体計画を見せていくことが重要である。

養鰻水道がどのくらい必要なのかということをも市民はわかりにくい。自治体の問題として水道管、下水道管の敷設替えは深刻な問題であり、市としてこういう政策だから補助しているということをも明確にし、市民に必要であるということをも訴えていかないと理解されない。

●No. 85 漁村活性化総合対策事業費補助金（農林水産課）

・主な委員からの意見等

単純に県に追随するのであれば不要では。

工事業者の入札・契約等の仕方などについて、市が指導することが必要。

市単独で継続していくかどうかを検討し、その覚悟がなければ一旦廃止すべき。

●No. 87 技術交流改善補助事業費補助金（農林水産課）

・主な委員からの意見等

調査・研究等の開催回数が目標というのはいか。

研究会、講習会は形骸化したり成果が不明なまま補助されていることが往々にしてあるため、本当に役に立っているかを精査して欲しい。

講習会等は市として学んで欲しいことに対する補助に見直すべきである。

漠然とした補助金名称ではなく「うなぎ」「あさり」等対象を明確にすべき。

各団体の性質が異なる。1/2 以上でも必要なものでは良いと思う。補助金の名称がわかりにくいのでわかりやすい補助金名にして欲しいと思う。

競争的資金方式に変えて、前例踏襲で補助する方法を改めるべき。

調査研究に補助を出すのは良いが講習は組合でやるものではないか。

各団体の性質が異なるため分割するなど補助金の名称をわかりやすくし、アサリやうなぎにいくら補助金が投入されているかがわかるようにしてほしい。それが説明責任であると思う。

6 その他

鈴木主任主査から今後のスケジュールを説明。

委員からの意見として、補助を受ける団体の構成員を提示してほしいとの意見があった。

以上、15時30分終了